

学部のあり方で意見交換 「学部長と話そう」開催

4月8日（水）午後に「学部長と話そう」を開催しました。本企画は、「学部長と話そう」と題して、学生と学部長の交流の場を設け、学部長及び参加学生と自由に意見交換することで、学生の意識や学習上の問題を把握し、その場で直接、助言を行うものです。




佐川泰弘人文学部長自ら対話を通じて学生の生の声を聞くという初の試みです。開催決定から実施まで時間がなく、授業開始前の時期での実施ということもあり、集まってくれた学生は学部生5名、大学院生2名の計7名でした。しかしながら、少人数だったことで、2時間近くにわたり副学部長も交えて大変中身の濃い対話がなされました。

冒頭から、茨城大学の人文学部は地方国立大学として今後どうあるべきかという大きなテーマでの議論となりましたが、その後、カリキュラムについての様々な意見や、学部・大学の施設についての具体的な要望や意見が多く出されました。また、茨城大学人文学部の魅力度アップのためには何が必要か、といったテーマでの意見交換も活発に行われました。



学生からいただいた意見等は、学部として真摯に受け止め、学修環境や教育の質の向上に繋がられるよう努めるとともに、改善に努力したいと考えています。

また機会を作り、2回目、3回目を開きたいと佐川学部長は意欲を示しています。その際にはさらに多くの皆様のご参加をお待ちしています。

今回参加してくれた学生・院生のみなさん、ありがとうございました！（終）

（付記）当日要望のありました教育学部授業関係の資料は、すでに「履修コーナー」に備え付けてあります。活用してください。